

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0391000023
法人名	医療法人 勝久会
事業所名	グループホーム 金山
所在地	〒 029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字相川73-30 (電話) 0192-55-1855

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年6月8日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(19年 5月23 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算7.03人	

(2)建物概要

建物構造	平屋 木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) 〇 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(5月 23日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	83.6 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松原クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホーム「金山」は、JR陸前高田駅より西側に10KMほどの西側に位置し、周囲には工場や自動車学校、住居が混在する閑静な場所で、平成18年12月に開所された事業所です。新設ということもあり、管理者をはじめ、利用者と全職員が事業所運営やサービス提供について、それぞれ情熱を持って一丸となって取り組み、利用者・職員の弾む会話や笑顔の絶えない明るい家庭的な雰囲気が感じられます。また、敷地内には、同法人内の関連施設、竹の里デイサービスやグループホーム「竹の里」もあり、両事業所とも連携を図りながら、介護の質を高めるための相互研修、緊急時の連携、地域との交流等積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成18年12月の開所であり今回が初回評価
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的について、全職員が共通認識をもったうえで取り組んでおり、定例の職員ミーティングにおいて、取り組まなければならない改善評価項目については、全職員で検討に臨む等、評価に対する前向きな姿勢が伺えます。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議においては、取り組み近況等必要な報告を行うと共に、委員から意見や要望等を受けるなど、双方向的な会議となるように配慮しています。また、受けた意見等については、積極的に利用者への改善サービスにつなげるように努めています。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との面会のみならず、電話や手紙などでも、日頃の暮らしぶりなど本人の様子についてお知らせするなど、こまめに連絡を取り合っています。また、家族の面談時等においては、何でも気軽に声がけしていただける雰囲気づくりに努めています。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区会費の納入、また地域の一員として、定例会、地区清掃などの諸行事への参加など、地域の一員として積極的に活動をしています。また隣接する医療法人所属のデイサービス事業所が受入れたボランティア行事やその他行事等に、グループホームの職員や利用者が参加し、その場を通じて地域の方々との交流にも努めています。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係づくりを目指した独自の理念として「ゆっくり・いっしょに・楽しみながら」をつくり上げ、利用者一人ひとりが有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができる介護を基本としています。所内掲示もされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月一回のミーティング時に、アセスメント(課題分析)、ケアプラン等に基づいた話し合い、日々のケアが定めた「理念」にそって提供されているかを振り返り、確認し合い、全職員の意識の統一を図っています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する同法人のグループホーム(竹の里)と連携しながら、地区会費の納入、また定例会等への参加を通じて地元との交流に努めています。最近では、隣接の住民と一緒にお茶を飲んだり、野菜などの差し入れを頂くようにもなっています。	○	地域の一員として、町内会に加入し、回覧版をまわすほか、地域行事に参加するなど、近隣住民との関係を深めるための取り組みを始めていますが、一層の地域交流に期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価であり、その意義、目的等について全職員で確認し合い、ホームの現状や運営面と照合しながら、まずは職員一人ひとりが自己評価項目に沿って評価し、改善の必要な事項についてはミーティングなどで検討するなど、共有へ向けた具体的な取り組みがされています。	○	外部評価の結果について、職員ミーティングなどで確認し合うと共に、改善が必要な項目について話し合い、実践につなげることが大切と考えます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目は、グループホームの運営概要、利用者の利用状況等について説明、報告しています。委員からは標識看板の設置や町内会への参画等、建設的な意見がだされた。次回は、今回の外部評価の報告をはじめ、サービス改善につながる意見交換をすることとしています。(「竹の里・金山」両事業所同委員)	○	評価結果については運営推進会議に報告すると共に、改善項目については、具体的に取組まれることを期待します。なお、会議をより効果的に進めるため、テーマを設定するなどして、意見を求めることも大切かと考えます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所や地域包括センターの担当者と共に、空床改善に向け、情報交換や課題解決のための連携をとっています。また、福祉事務所の生活保護担当者が定期的に来所し、情報交換しています。	○	地域密着サービスは、利用者が身近なところで臨機に、柔軟に対応できるところに良さが 있습니다。そのためには、市町村との情報交換が大切と考えることから、あらゆる機会を通じて取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調変化などは電話、FAXで即時に家族へ連絡し、また、家族との面会時には金銭管理や日常生活状況を報告するとともに、小遣い帳を見せて収支状況をお知らせしています。	○	生活の様子やホームの運営について積極的に情報提供をすべく、ホーム便りなどの発行が検討されています。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、理念や運営目標・相談苦情の窓口の表示がなされ、透明性、公開性への配慮が伺える。家族の訪問時には、要望や意見を聞けるように、馴染みの職員で対応させるなどの配慮がされています。	○	利用者、家族の意見や要望を把握するために、アンケートを検討しています。家族の願いや希望を気軽に伝える手段の一つになることが期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員は顔なじみで対応することが何より大切であるという考えに立っています。やむを得ず職員が異動をする際には、利用者に安心感を持っていただくように、職員の紹介など、関係づくりがスムーズに行えるように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員の伝達報告、回覧、復命は整理されています。ホーム内のケアカンファレンス(事例検討会)は月1回開催しており、法人内の5グループホーム事業所の交換研修会など、職員の技量の向上に役立っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県グループホーム協会への加入をはじめ、沿岸ブロック定例会への参加、また、法人内の5グループホーム事業所による「研修計画」に基づく相互訪問の実施等、お互いの状況や問題点について話し合い、サービスの向上につなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に安心感を持っていただくために、事業所の見学や、職員との話し合いなど、不安軽減に努めています。また、利用者の自立度を維持するケアを最大の課題とし、本人が安心と納得がいく対応や支援に心配りをし、馴染みの関係を深める努力をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人本位の話に傾聴する姿勢を大切にし、心を寄せながら、その思いを察するような対応をしています。また、包丁のさばきや食器洗い、掃除、畑作業等の要領を学びながら、喜び楽しみを共にし合う関係づくりを築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が出来たことやその腕前、言動を、出来るだけ具体的に生活記録に記録し、利用者一人ひとりの心の思いや主張の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングで、全利用者のケアカンファレンス(事例検討会)を行い、その内容を踏まえて家族との面会時に報告し、意向や希望を引き出し、介護計画への反映に生かしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の来訪時には「援助計画書、ケアプラン」状況を基に、意見や希望を引き出し、本人、家族のニーズを計画に反映させる取り組みをしています。また利用者の家族の意見の変化など、その時々話し合いに対応し、変更した場合には家族の同意を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物への同行、利用者の希望による観光的なドライブ、家族のニーズに応じたふるさと訪問などを行っています。これらの取り組みの様子や参加状況等は、生活記録に記録しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の同行を原則としております。またかかりつけ医への報告は、本人の症状や状態変化に応じて行い、指導助言を戴いています。時には家族の都合にあわせ職員の同行対応もあり、事後の報告はしっかり家族に連絡し、記録にも残しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「医療連携体制に関する指針」に基づき、重度化、終末期におけるケアについて、本人、家族の意向や意見を最優先することを家族に伝えていきます。	○	「医療連携体制指針」についての学習、終末期の対処、対応に関する職員研修も大切と考えます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対処している。また、対応や支援の直後には「感謝」の言葉がけをしっかりと伝えています。プライバシーの問題は、接遇委員会で研修し意識統一を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により、ゆっくり起床したいときには、それに合わせて食事を提供するとか、テレビ番組と入浴の時間帯を配慮するなど、本人本位の意向や思いが叶えられる状況や環境を整えながら、柔軟な支援や対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆さんがドライブからの帰所後、洋食風の昼食をみなさんと一緒に頂いた。職員は、一人ひとりの利用者に対して、味付けの伺い、えりごのみする利用者を励ますなど、その巧みな対応ぶりが食事の雰囲気を和ませます。食後の片付けも、利用者、職員と一緒に、それぞれに応じた分担を上手にこなしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を目途にし、利用者の希望やタイミングに合わせた入浴を提供しています。また、安心、安全へのマニュアルを作成し、利用者が快く入浴できる対応をしています。入浴状況については生活記録等にそれぞれ必要な記録を行うとともに、羞恥心への細やかな心配りもしながら取り組んでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	開設当初は、役割や分担をお願いしていたが、最近では習慣化され、声がけされなくても、玄関やフローリングの掃除をしています。また新たに裁縫や工芸など、過去に鍛えた腕前が発揮される場面づくりや活動を取り入れる活動などが計画されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	弁当持参で季節の観光を楽しんだり、馴染みの場所や故郷巡り、ドライブ、買い物、周辺散歩などを通じて、利用者の気分転換や五感刺激などの多様な支援を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	心理的な圧迫や不安、気力消失等与えないように施錠はしていない。帰宅願望の方や徘徊の方には、行動を共にするなど、その思いに接する対応をしています。また、近隣住民への協力依頼などの対策をとっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開所して1年に満たないが、災害組織体制は確立されています。1回目の反省に基き、次回の訓練は、運営推進会議への働きかけや協力を仰ぎながら、近隣住民の協力体制の実施に向けた計画に着手しています。	○	消防署や地域住民の参加、協力を得ながら、夜間想定避難訓練の実施を予定している。夜間想定という厳しい条件の訓練故の機密な計画が望まれます。町内会の定例会で理解と協力を得ることが大切と考えます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に指導助言を頂きながら、地域の食材を活かす献立を採り入れています。摂取状況、水分確保も一人ひとりの力に応じて支援し、ケアチェック・アセスメント表で把握され、衛生管理にも努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の特性を考慮して建築したという共有の空間は、空調や採光もほどよく、ガラス越しには外の様子が一望でき、来訪者にも目が向きやすい。テレビが観賞できる空間は、立ち居振る舞いにも安心なソファの材質、配置などの工夫もあり、落ち着いて過ごせるような配慮がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洗面台が備え付けられているが、居室のカーテンの色は、入居時に家族、利用者が選択できるよう工夫しています。また、馴染みの調度品、装飾品等は、新品を持ち込むため、できるだけ馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう薦めています。	○	季節によっては、太陽光の入りにくい居室への対策として、照明や換気などへの配慮が必要かと思われます。